

Text=Rie Nakano

Photo=Atsushi Ono, Naoyuki Toyoda, Kotaro Tanaka, Sayoko Matsuda, Kenji Takasaki, Rie Nakano

広瀬研だより ちょっとトリビアな無脊椎動物の話

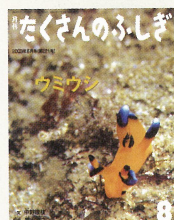
第4回 キヌハダさんたちの お食事メニューが 気になって

これを書いている今日は'09年2月9日。修士論文の締切まで残り1日。わたくしのアタマの中は常にも増してウミウシ、それもキヌハダウミウシ類のことでバツバツである。

これほどまでにウミウシに脳内を占拠されてしまったのは、'04年刊行の『本州のウミウシ』執筆時以来である。その前は『たくさんのふしぎ』'03年8月号「ウミウシ」の制作時。わが修論のテーマ「キヌハダウミウシ類の食性」に初めて興味を持ったのは、実はこの時だったのです。

ウミウシは、カイメンやホヤ、ヒドロ虫など、さまざまなものを餌にする。中にはウミウシを食べるウミウシもいる、と私は『たくさんのふしぎ』に書いた。しかし『たくさんのふしぎ』は絵本なので書くだけではダメ、ウミウシがウミウシを食べている現場をカメラマンの豊田直之さんに撮ってもらわないといけない。撮ってもらうためにはウミウシを食うウミウシとウミウシに食われるウミウシを捜さないといけない。そこでウミウシ捜しのエキスパート、八丈島(コンカラー)の田中幸太郎さんにご協力をお願いすることになったのだが、……何ウミウシと何ウミウシが撮影に必要なのさ？

ウミウシ食いウミウシには、キセワタ類、ウミフクロウ類、イシガキリュウグウウミウシ、キヌハダウミウシ類、トウリンミノウミウシなどがいるのだが、八丈島で最も見つけや



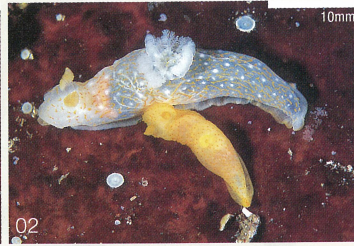
福音館書店刊『月刊たくさんのふしぎ』'03年8月号「ウミウシ」。写真担当はカメラマンの豊田直之さん。今年夏にハードカバー化されることになりました。

文=中野理枝

Profile>>'87年OW取得。'96年あたりからウミウシに目覚める。小野篤司さんの『ウミウシガイドブック1』『沖縄のウミウシ』を編集。『本州のウミウシ』を編集・執筆。'07年4月、琉球大学大学院に進学。雑誌・書籍の編集や執筆の仕事をつながり広瀬研究室にてウミウシ研究に進進中。

監修=広瀬裕一
琉球大学理学部海洋自然科学科教授・理学博士

Profile>>'91年理学博士取得。その後3つの大学を転々として、'97年より琉球大学に勤務。担当講義は「無脊椎動物学」だが、ウミウシについては中野さんのほうがずっと詳しい。➡www.geocities.jp/lissoclinum/TunicataJ



(01)フジロミドリガイを丸呑みしようとしているオキナワキヌハダウミウシ。(02)オキナワキヌハダウミウシに噛みついてるキヌハダモドキ。(03)コノハマドリガイを捕食中のキンセンウミウシ。外部形態の似るキノゾウウミウシはチドリミドリガイを捕食する。キノゾウとキンセンを同種と見なす研究者もいるが、キンセンウミウシはチドリミドリガイの分布域である奄美大島以南で目撃されていない。したがって同種か同種であるかどうかは、フィールドでの食性から判断することは現時点では不可能。(04)ミノウミウシの未記載種をまもなく丸呑み終えるアカボシウミウシ。体長は10mmほど。潮間帯のアカボシが何を食べているかは後日お知らせします。(05)シラナミウミウシを捕らえたキイボキヌハダウミウシ。写真01,02=田中幸太郎(ダイビングクラブコンカラー) 03=高崎

すいキヌハダウミウシ類は何を食うのかよく知られておらず、ネット上では「ウミウシなら何でも食う」「イボウミウシすら食う」などの流言蜚語が飛び交っていた。

いくらなんでもイボは食うまい、あんなに固いんだから……と思いつつ文献にあたったところ、アカボシウミウシがミノウミウシ類を食うこと、キヌハダモドキは同じキヌハダウミウシ属のウミウシや、その卵を食うことなどがわかった。イボを食うキヌハダ類は現時点で見つかっていないこともわかった(やっぱり)。

そうこうしているうちに田中さんから「キヌハダモドキがオキナワキヌハダウミウシを食っちゃいました!」と連絡があった。

おかげで撮影は無事終了、絵本も無事に刊行され、私のアタマの中には「?」が残った。ミノウミウシのいそがない浅場のアカボシは何を食べているのだろうか? オオエラキヌハダは何を食べているのだろうか? キイボキヌハダは? シロボンボンは?

自分が食い意地が張っているせいか、キヌハダさんたちのお食事内容が気になって気になってしかたがない。それにそもそもキヌハダさんたちは、あの広い海の中で餌をどうやって見つけるのだ?

その後ウミウシと関われば関わるほど「?」の数は増えていった。けれど大学院で気になること全部を研究

にご覧いただいた。

広瀬先生はリストに目を通されてから私に聞かれた。「この中に、データがある程度揃っていて、すぐ論文が書けそうなものはありますか?」

「キヌハダウミウシ類については、ある程度はデータがありますが……。リュウグウウミウシ類はデータが少なめなので、座間味島の小野篤司さんにご協力をお願いしてみます。あとの2つはもう少し標本を集めればなんとかなるか」と

「ではキヌハダウミウシの手持ちのデータで論文が書けるかどうか、検討しましょう」

「え? 進学前ですよ? もう書くんですか?」

「データがあるなら書くべきですよ」

このようにして私の大学院での研究テーマは決まったのでした。

それ以来、潜ってはひたすらキヌハダウミウシ類を捜し、多くの方々から情報や写真を提供していただき、広瀬先生にご指導いただいて、1本目の投稿論文と修士論文を書き終えました。現時点で報告できることは写真参照。続きは2本目の論文が日目の目を見てからお知らせしますね。



モンジャウミウシを捕食中のシロボンボンウミウシ。シロボンボンウミウシには未だ学名がついていないが、キヌハダウミウシ類には本種の他にも多くの未記載種が存在する。それらの同定と記載は中野の今後のテーマのひとつ。写真=小野篤司(ダイバービス小野に、い)